

ポー・カレン語の「文語体」について

加藤昌彦

1. はじめに

ポー・カレン語は、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派カレン語群に属する言語である。西部方言群、東部方言群、北部方言群、トゥークリーバン方言等に分かれ、それらは互いに通じない。本発表で扱う方言は、東部方言群に属するパアン方言(Hpa-an dialect; ミャンマー連邦カレン州の州都パアン市周辺の方言)である。東部方言群はミャンマー連邦カレン州、モン州、タニンダーイー管区、タイ国カンチャナブリー県等に分布する。(言語の概要については Kato 2017 を参照)

2. ポー・カレン語の「文語体」

東部ポー・カレン語を書き表す文字には、少なくとも、仏教ポー・カレン文字、キリスト教ポー・カレン文字、レーケー教文字の3種類があるが、lái phlòuŋ 「ポー・カレン文字」といえば、このうち仏教ポー・カレン文字のことを指す¹。仏教ポー・カレン文字は、モン族(Mon)からの仏教受容に伴い、モン文字に基づいてなれば自然発生的に成立したものである。18世紀末から19世紀前半にかけて基礎が出来上がったと思われるが、正確な経緯は分かってない。その後、貝葉文書の作成に際して用いられていくものの、使用はいくつかの僧院の中だけに限られていたようで、人口に膾炙することはなかった。ジャンルも韻文に限られていた。1960年代に、ビルマ社会主義計画党の主導により、少数民族語の教科書を作る動きが生じ、それに伴ってカレン州パアン市でも仏教ポー・カレン文字の教科書が何冊か出版された。同時に、正書法としての整備がなされた(例えば声調を体系的に表記できるようにした)。整備されたこの文字は、有志による文字講習や僧院での文字教育等の形で教えられ、散文も書かれるようになっていくが、自由に読み書きできる人はなかなか多くならなかった。2011年のミャンマーの民政移管以降、初等教育において少数民族語教育が認められ、小学校においてこの文字が教育されるようになったので、この文字の普及は進んでいくものと思われる。しかし、全般として見たとき、書き言葉がポー・カレン人社会に浸透しているとは言いがたい状況である。

書き言葉が定着していない状況であるにもかかわらず、ポー・カレン語には明らかに文語体が存在する。文語体の特徴として、(a)文末助詞 lă [55] 「～であります」の多用、(b)対

¹ 仏教ポー・カレン文字の概要については加藤(2001a)を参照。一方、キリスト教ポー・カレン文字は19世紀半ばに成立したが、もともと仏教徒が多かった東部方言群地域には広まらず、後に信徒の増えた西部方言地域で広まることになった(加藤 2001b, 2006)。東部方言は仏教ポー・カレン文字とキリスト教ポー・カレン文字のどちらでも書くことが可能。例えば、nə ʔán mî yòŋ jàŋ kâ (2sg/食う/飯/終わる/PERF/か)「ご飯を食べたか?」は、仏教文字では ၵၢ်အင်းမေဝ်တိုင်ယုဂ်ဟ့ၵ်။ と書かれ、キリスト教文字では, ၵၢ်အင်းမေဝ်တိုင်ယုဂ်ဟ့ၵ်။ と書かれる。

句表現の多用、(c)関係節標識を用いた関係節の多用、を含むいくつかの傾向が挙げられる。それぞれの例を少し見ておく。

まず、(a)の例である。書き言葉では、(1)のように、文末助詞 *lɔ̃* で終わる文が頻出する。文章によっては、ほとんどの文がこの助詞で終了する。しかし、話し言葉に *lɔ̃* が現れることはほとんどなく、文末位置には(2)のように他の何らかの文末助詞が現れることが多い。

(1) *ʔéin nó θí θáun thán nī wè dè wá nó lɔ̃* [書き言葉]
家 TOP also 建てて up 得る(強調) COM 竹 その SFP
「家も、竹で作られているのです」

(2) *ʔè mwē θí mə mwē θī chī nê* [話し言葉]
if COP also IRR COP also too SFP
「そうかもしれないね」

一つ考えておかなければならないのは、*lɔ̃* [55]に形の似た助詞 *lɔ̃* [51]が存在し、話し言葉においてもこの助詞は(3)のように現れることがあるということである。これは強調を表す。

(3) *ʔawê mwē phlòun lɔ̃* [話し言葉]
3sg COP カレン族 SFP
「カレンは(他でもなく)カレン族だよ」

書き言葉の文末に現れる *lɔ̃* が、これと同一の形式である可能性を考慮する必要がある。声調の違いがあるが、*lɔ̃* [51]に文末に現れるイントネーションの一種[55]がかぶさったと考えれば、*lɔ̃* [55]のように発音されることも説明がつく。しかし、本発表では同一形式であるとは考えない。その理由は、一つめに、仏教ポー・カレン文字ではこの二つを書き分けるということである(19世紀半ばにアメリカ人宣教師によって作られたキリスト教ポー・カレン文字では書き分けない)。二つめに、もし書き言葉に現れる文末助詞 *lɔ̃* が強調の *lɔ̃* だとしたら、ほとんどの文が *lɔ̃* で終わる文章における *lɔ̃* の存在意義を説明するのが難しい。ほとんどの文が *lɔ̃* によって強調されているのだとすれば、もはやそのテキストにおいて *lɔ̃* は強調を表すことができなくなるだろう。したがって、本発表では、*lɔ̃* と *lɔ̃* は別物であると見なして論を進める。

(b)の対句表現については、(4)を見られたい((5)と比べよ)。対句表現の使用は、通常の話し言葉ではそれほど頻繁ではない。ただし、使われないというわけではなく、強調等の効果を狙って使われることがある。昔話等の語りにもよく現れる。(東南アジア諸語の対句表現については Matisoff 1973: 81-86, 297-301 参照。Matisoff は *elaborate expression* と呼ぶ)

(4) já xâin phài xâin [対句表現]
肌 乾く 皮 乾く 「肌が乾燥する」

(5) já xâin [通常の表現]
肌 乾く 「肌が乾く」

(c)の関係節標識を用いた関係節の多用については、(6)と(7)の対および(8)と(9)の対を見られたい。書き言葉では、(6)と(8)のように、関係節標識 *lâ* を用いて名詞に後置する関係節が話し言葉よりも多く現れる。話し言葉でこのタイプの関係節が現れることは、ほとんどないと言ってよいほどである。話し言葉では(7)や(9)のような関係節標識を用いないタイプが使われる。(7)では関係節が名詞の直後に置かれ(主名詞が関係節の主語に相当する場合)、(9)では関係節が名詞の直前に置かれている(主名詞が関係節の主語以外に相当する場合)。

(6) phlòun lâ [ʔə lì bá cəpân] nó [関係節標識を用いるタイプ]
人 REL 3sg 行く (経験) 日本 その 「日本に行ったことのある人」

(7) phlòun [lì bá cəpân] nó [関係節標識を用いないタイプ]
人 行く (経験) 日本 その 「日本に行ったことのある人」

(8) láip̄əu lâ [jə p̄ə] nó [関係節標識を用いるタイプ]
本 REL 1sg 読む その 「私が読んでいる本」

(9) [jə p̄ə] láip̄əu nó [関係節標識を用いないタイプ]
本 読む 本 その 「私が読んでいる本」

本発表では、(a)の事例に着目し、書き言葉に用いられる *lâ* がどのようにして現れたのかを考える。結論として、*lâ* は、多数の聞き手が存在する場面(演説や法話等)において発話に丁寧さを付加する機能を持っており、その機能が書き言葉という場面で活用されているのだと考える。

3. 使用の実際

以下、書き言葉の例として「Text 1: 私達のボンカタイ村」「Text 2: 民族が強固であるために」を取り上げ、また、話し言葉の例として「Speech 1: ドン舞踊についてのインタビュー」「Speech 2: カレン州記念日ドン舞踊コンテストの準備」「Speech 3: ミャンマー国営放送ポー・カレン語番組の紹介」を取り上げる。Text 1はポー・カレン語の教科書(*phlòun láip̄əu lə chān*, 1960年代?)に掲載の読み物、Text 2はポー・カレン語の雑誌(*chì thàbān cùkhì láibéin*, 1996年)に掲載されたエッセイである。話し言葉の例として挙げる3つは、2013年に始まったミャンマー国営放送少数民族番組(NRC)のポー・カレン語番組から取ったものである。

Text 1: 私達のボンカタイ村 (I-10) (全文)

(10) pə təwân nó ?ə mèin mwē wê búŋkətái lǎ
 1pl 村 TOP 3sg 名 COP EMP (固有名詞) LO
 「私達の村は、名前がボンカタイです」

(11) pə təwân nó ?ó lǎ dòn thə?àn ?əphānkhó
 1pl 村 TOP ある LOC 町 パアン 上

lǎ thǐkhló phádó ?ənàin nó lǎ
 LOC 川 大きな 傍 その LO

「私達の村は、パアン市の上方(川上側)、大きな川のほとりにあります」

(12) pə təwân dē dòn thə?àn nó ?ó jàin wē jē tən lǎ
 1pl 村 と 町 パアン TOP ある 遠い EMP 5 マイル LO
 「私達の村とパアン市は5マイル離れています」

(13) lǎ təwân phèn nó yéin ?ó wē θənjà blé lǎ
 LOC 村 中 TOP 家 ある EMP 300 越える LO
 「村の中には家が三百数十軒あります」

(14) yéin chānlé làn θà lǎ thǐkhló ?ənàin nó
 家 並べる down MID LOC 川 傍 ~して

?əɛò ?ó wē lə tən blé lǎ
 距離 ある EMP 1 マイル 越える LO

「家が川のほとりに並んでおり、その距離は1マイル半あります」

(13) lǎ təwân phèn nó chəmàlóláiphjā ?ó wē nī phlóŋ,
 LOC 村 中 TOP 学校 ある EMP 2 個

chə nī phlóŋ nó mwē wē lǎ ?əklà lə chú nó lə phlóŋ
 物 2 個 TOP COP EMP LOC 真ん中 1 箇所 TOP 1 個

dē ?əkhánthài lə chú nó lə phlóŋ chī lǎ
 and 下 1 箇所 TOP 1 個 (婉曲) LO

「村の中には学校が2つあり、それらは中央の地区に1箇所、下の地区に1箇所です」

(14) lǎ təwân phèn nó təwānp hó thiləphá dòn bá wē θai ?é
 LOC 村 中 TOP 村人 (複) 煮る (機会) EMP 酒 NEG
 「村の中では村人達は酒を造ってはなりません」

- (15) bú lán bá thòphó chànphó ?é chī lís
 飼う down (機会) 豚 鶏 NEG (婉曲) LO
 「豚や鶏を飼ってはなりません」
- (16) pə təwân nó mwē wē dá pəmácháiphó dē pəmàklòphó θí ?ə təwân lís
 1pl 村 TOP COP EMP (限定) 稲を作る人 と 畑を作る人 (複) 3sg 村 LO
 「私達の村は、農民の村であります」
- (17) ló təwân mūnáo khô nó cháipətà dē cháitəwê θí ?ó wédá chī lís
 LOC 村 西 側 TOP 涼期の田 と 暑期の田 (複) ある EMP (婉曲) LO
 「村の西側には涼期の田と暑期の田とがあります」
- (18) ló mūthán lə khô thíkhló phèn kò khódà nó dò pəeā mà ?án klò
 LOC 村 1 側 川 中 洲 表面 TOP また 人 作る 食べる 畑
 dē θəwân ?án chədòchələ θí ?ó wédá chī lís
 and 植える 食べる 野菜 (複) ある EMP (婉曲) LO
 「東側の川の中にある洲では、人々が畑を作り、野菜を植えて暮らしています」
- (19) pə təwân nó ?ó wē ló thíkhló nàin nó ?əkhócòn, nī néin θəwân néin
 1pl 村 TOP ある EMP LOC 川 傍 その ないので 2 年 3 年
 lə blán thíkhló bài thán wē təwân nó klò lís
 1 回 川 覆う up EMP 村 TOP いつも LO
 「私達の村は川のほとりにあるので、2,3年に1回、洪水が起きるのが常です」
- (20) ló təwân phèn nó pəeā θəwân lán θè phlò dē θàkwì θè nótā,
 LOC 村 中 TOP 人 植える down 檳榔 ココヤシ と バナナ (複) ~して
 eúmáo wē yìyìbábá chī lís
 平和な EMP 良好に (婉曲) LO
 「村の中に人々がビンロウヤココヤシやバナナの木を植えていて、非常に平和です」
- (20) pə təwânphó θiləphá ?ó xú ?ó xán klicì mà cháí mà klò nó ?əkhócòn,
 LOC 村人 (複) いる 団- いる -結 勤勉 する 田 する 畑 その ないので
 ?əθíwé ?án jən ?ó xwè kò yà dè chī lís
 3pl 食べる 充- 飲む -足 各 ~人 毎 (婉曲) LO
 「村人は団結し田畑を勤勉に作っているので、全員が満ち足りています」

Text 2: 民族を強固にするための十五ヶ条 (IV-01) (冒頭部分)

- (21) lĭkà khódà jò chàmwē chiphó θiləphá kò chī dè nó ?ó dá chà
世界 表面 この あらゆる 民族 (複) 各 種 毎 TOP ある (限定) 物

dē ?əθí pənôn dē ?əθí təkhephənthà ?əphlôn nó thəmā chī lís
COM 3pl 規則 と 3pl 規律 条項 TOP 専ら too LO
「世界のあらゆる民族は規則や規律を持っていることが普通です」

- (22) ?èyòndò thikhān lə béin dē lə béin mwē ?əyì
そして 国 1 枚 と 1 枚 COP ~であれ

bē mə thánthō bē mə yəuŋkhən θò nó ?ókí làn thá
so.as IRR 発展する so.as IRR 強固な よう TOP 置く down (保持)

dē ?əθí pənôn dē təkhephənthà ?əphlôn nó thəmā lís
COM 3pl 規則 と 規律 条項 TOP 専ら LO
「そして、どんな国であれ、発展し強固になるよう、規則や規律を持っていることが普通です」

- (23) chī lə chī mwē ?əyì thikhān lə béin mwē ?əyì, khlo làn thá pənôn
民族 1 民族 COP ~であれ 国 1 枚 COP~であれ 置く down (保持) 規則

təkhephənthà ?əphlôn ?è lə ?ó bá cái bò, khān chibòn ləphá nó
規律 条項 もし (否定) ある (否定) 言うなら 国 民族 (複) TOP

mə ?ó yəuŋkhən wē nó mwē ?é lís
IRR ある 強固な (強調) TOP COP (否定) LO
「民族であれ国であれ、規則や規律がなければ、国や民族は強固ではられません」

- (24) lĭkà khó chàmwē chibòn ?ó ləphá nó dō ?ó wē dē
世界 表面 あらゆる 民族 ある (複) TOP ある (強調) COM

chibòn dó chibòn pī dài chī lís
民族 大きい 民族 小さい まだ too LO
「世界にいるあらゆる民族には大きい民族と小さい民族とがあります」

- (25) bāchāin lā chibòn ?əpī θèləphá nó ?əkhājò lā chibòn ?ədó θèləphá nó?ò
関する LOC 民族 小 (複) TOP 今 LOC 民族 大 (複) TOP

ʔáŋjũ lánbài khwái wé chibòn ʔəpĩ θèləphá nó
飲み込む 埋まる (徹底) (強調) 民族 小 (複) TOP

ʔá wé jàu chī lǐ
多い (強調) PFV too LO

「小さな民族に関して言えば、現在、大きな民族が小さな民族を飲み込んでしまっ
ていることが多くなっています」

(26) chibòn-phó θèləphá nó bá lánmā plò khwái lǐ chibòn dó ʔəklà ʔò
民族-子 (複) TOP must 消える 無駄に (徹底) LOC 民族 大きな 中 あの

nó ʔó wé ʔá mā chī lǐ
TOP ある (強調) 多い very too LO

「小さな民族が大きな民族の中で為すすべなく消えてしまっていることがたいへん
多いのです」

(27) ʔəkhājò həphlòuŋ chiphó θíchī xwè pə dá bá nó
今 カレン 民族 も ~する限り 1pl 見える (機会) TOP

ké thán tháin chī xāxòŋ nó ʔá mā jàu chī lǐ
なる up 次は 民族 別の TOP 多い very PFV too LO

「現在、カレン族も、観察する限り、別の民族になってしまっていることが非常に
多くなっています」

Speech 1: ドン舞踊についてのインタビュー (NRC_HlaHtwe.mp4, 1分26秒から)

(28) xúchíθəŋ blán thánbà phlòuŋ thikhān mūni ʔèyòndò dē
63 回 になる カレン 州 日 それから COM

bácháin dē phlòuŋ thikhān chəʔóchónʔókhláin θè chəthánʔwíthánphá dē
関する COM カレン 州 健康 (複) 経済 と

chəéúchəbá jā nê
平和 かね

「63回目のカレン州記念日、それから... カレン州(の人々の)健康と経済、そして平和
ですね」

(29) phóthá θè khô θí bácháin lé chəθíchəbá láilē θè chəxíchələ θè
子供 (複) 側 も 関する LOC 教養 文字 (複) 文化 (複)

- ʔəɣāN nó hə chônMÓN chûkè bēnóθò jā bò
 ため TOP 1pl 考える 書く そのように か よ
 「子供達のことに関しても、教養や読み書き、文化などの(発展の)ため、(民族舞踊
 の伴奏音楽の歌詞を)考えて書いたというわけなんですよ」
- (30) lé dōUN thəʔāN khənāN mjódò tōUN nó hə pətōN ʔántāin lāN lú ʔàutòbàlà
 LOC 町 パアン 郡 (固有) ドン TOP 1pl 開設 準備 down LOC 10月
- ʔəθāN θəNchī khā nó hə ɣê lāN pəkōUN θò jā bò
 日 30 時 TOP 1pl 来る down 集める 友 か よ
 「パアン郡のミョードー・ドン舞踊団は、10月の30日に創設して、有志を集めてき
 たのです」
- (31) pəkōUN θò θəɣōN cəkhāNθwīN, ʔəlāndà nó lé thəʔāN jīncémúpjátái jā bò
 集める 友 して 合宿する 場所 TOP LOC パアン 文化博物館 か よ
 「有志を集めて合宿したのですが、場所はパアン文化博物館でした」
- (32) ʔəjò nó múɣī chāmwe máló wá hə tōUN kòplāN nó jā,
 これ TOP 去年 あらゆる 教える (機会) 1pl ドン (村名) あの か
- lé kòplāN phóthá θè θí ʔəlānli pà lənānnāN chī
 LOC (村名) 子供 (複) も 旧い人 含まれる いくつか too
 「それから、去年、私達のドン舞踊を教えたコープラン村(の舞踊団の)全員のうち、
 その子供の何人かもいます」
- (33) ʔəyōndò lənēinjò θí pàicōN kənāN nê mjāincíjù θí pà chī
 そして 今年 も (地名) 郡 ね (地名) も 含まれる too
 「そして、今年もパイチョン郡ですね、(その)マインジューグー(の子供)もいます」
- (34) lé mjáwədi dōUN khô θí pà chī
 LOC (地名) 町 側 も 含まれる too
 「ミヤワディー市のほう(から来た子供)もいます」
- (35) kòtərai θí pà chī
 (地名) も 含まれる too
 「コカレイ市(から来た子供)もいます」
- (36) chərā θəN ɣà jā nê, chərā θəN ɣà nó ʔəθíwədə, lé thàU wá
 先生 3 人 か ね 先生 3 人 TOP 3pl EMP 引く (機会)

thàu wá nàin θí, pə kò bènóthò θí pà chī
 引く (機会) 再び も 1pl 呼ぶ そのように も 含まれる too
 「先生3人はですね、先生3人は、再び引っぱってきた人、私達がそうやって呼んで
 来た人たちです」

- (37) ʔèyòndò lé mjáwadi θè khô mwē ʔəθí γê làn nó
 そして LOC (地名) (複) 側 COP 3pl 来る down TOP

wàθənáein θè θí pà chī
 愛好家 (複) も 含まれる too
 「そして、ミャワディーなどから来た人たちは、愛好家も含まれます」

- (38) lənéinjò θí chāmwē chə prənxòN nó ʔə chəpəjù nó
 今年 も あらゆる (非人称) 競う TOP 3pl 目的 TOP

ʔókí thánthô lô jā bò
 置く 高い (強調) か よ
 「今年も、踊り子のすべては、目標を高く置いています」

- (39) ʔèyòN lúu múyī nī dá wè ljāθài ʔənáinlən ʔəchân nó θí
 そして LOC 去年 得る 置く (保持) 賞 第一 段階 TOP も

bê mə nī nàin ljāθài θò, dē chərà θè dē thiphlē θè mòmòxòxò θè nó
 so.as IRR 得る 再び 賞 よう COM 先生 (複) COM 弟子 (複) 共に (複) TOP

lò xúu lò xàn lóthà, hə mə klicì jā bò nê
 言う 団- 言う -結 (相互) 1pl IRR 努力する か よ ね
 「そして、去年いただいた一等賞も、再びもらえるよう、先生と弟子が共に団結し
 て、努力する所存です」

- (40) hə jò, bácháin dē ʔəphlòUN thikhāN mūni nó thánbà lán
 1pl この に関して COM カレン 州 日 TOP なる up

xūchíθōN néin jāu nê
 63 年 PFV ね
 「カレン州記念日について言うと、63年になるわけですね」

- (41) ləkhāin ləkhāin khô nó θí ʔó thá wè dá thōN kò néin kò néin dè jā nê
 今後 今後 側 TOP も ある 置く(保持)(限定)まで 各年 各年 毎か ね

néinróN ləjə lə kà, lə néin má lə blàN nó chəməúlá chəxíchələ nó
 年数 百 NEG 限る 1 年 に 1 回 TOP 希望 文化 TOP

ʔó dáwê kò néin dè kò blàN dè hə jū cò jāthəpā bēnó l̩
 ある (祈願) 各 年 毎 各 回 毎 1pl 見る (遠隔) 祈る そのよう (強調)
 「今後もずっと、何年もですね、百年と言わず、毎年、希望と伝統文化が永久に続
 くよう、見守り、祈っています」

Speech 2: カレン州記念日ドン舞踊コンテストの準備 (NRC_HlaHtwe.mp4)

(42) j̄ophòN còN phlòUN chəθəuchəklè thônphūwē mōphā khəmləN θè
 見る (皆で) カレン 番組 兄弟 父母 観衆 (複)

kò yà dè ʔó chón lā chài
 各 人 毎 いる 元気な (希求) SFP

「ポー・カレン語番組を見てくださっている視聴者の皆さん、こんにちは」

(43) chī lə chī nó ʔəθí láilē thūrūmənbjə chəxilà chəphóchəʔú
 民族 1 民族 TOP 3pl 文字 伝統 文化 楽器演奏

chəthəwɪnliθəwɪnthəin θè nó ʔó wédá thəmə chī l̩
 舞踊 (複) TOP ある (強調) 専ら too LO

「ひとつの民族には、文字や伝統文化としての音楽や舞踊があるのが一般的です」

(44) phlòUN chiphó θè nó θí ʔəθí láilē thūrūmənbjə chəxilà chəphóchəʔú
 カレン 民族 (複) TOP も 3pl 文字 伝統 文化 楽器演奏

chəthəwɪnliθəwɪnthəin θè ʔédò phádó rēθē wédá ʔəkhócòN,
 舞踊 (複) 愛する 大きい 敬う (強調) ので

phlòUN thikhāN mūni ʔè thòN nó, náU làn prənxòN wédá
 カレン 国 日 もし 着く TOP 入る down 競う (強調)

phòUN chəxilà tōUN θè nó chī l̩
 カレン 文化 ドン舞踊 (複) あの too LO

「カレン民族も、文字や伝統文化としての音楽や舞踊をたいへん愛し、敬っている
 ので、カレン州記念日になると、カレンの伝統文化であるドン舞踊の競技会を開
 きます」

(45) nīthônłəchîxó néin là nòwìnbà nwē θân ?è thòn nó, phlòun thîkhān
2018 年 月 11月 7 日 もし 着く TOP カレン 国

mūmì nó mə thánbà thán wēdá xūchîθōn néin jàu nē
日 TOP IRR なる up (強調) 63 年 PFV ね
「2018年11月7日、カレン州記念日は63年目を迎えるのですね」

(46) cānbò xūchîθōn néin thánbà phlòun thîkhān mūmì khó
だから 63 年 なる カレン 国 日 (未来)

mə náu làn prənxòN phlòun chəxîlà tōun θè nó ?ə chəkricì ?ó
IRR 入る down 競う カレン 文化 ドン舞踊 (複) TOP 3pl 努力 ある

bêthî lê nó mə dá bá bējòthò chî ló
どう か TOP IRR 見える (機会) このよう too LO

「だから、63年目になるカレン州記念日に競う予定のドン舞踊団が、どのような努力をしているか、これからご覧に入れます」

Speech 3: ミャンマー国営放送ポー・カレン語番組の紹介 (NRC_introduction.mp4)

(47) mōphā khəmlān θèθî kò yà dè, ló ?énàcí phlòun chəθàochəklè khó
父母 観衆 (複) 各 人 毎 LOC NRC カレン 番組 側

?ánýá làn bá chî ló chàì
歓迎する down (機会) too (強調) SFP
「視聴者の皆さん、NRCのカレン語番組にようこそ」

(48) kəlòun læ mèin bê mə thánthò θò cài bò,
仕事 1 種類 so.as IRR 発展する よう 言う なら

kòunlwē ?əphû?ədón nó ?əlò dó tháu ló jā
組織 団体 TOP 要求 大きい 最も (強調) ではないか
「ひとつの仕事が発展するためには、組織が最も重要ですよ」

(49) kòunlwē xúxàn má, kəlòun chəphlònyá nó mə nī wēdá jā
組織 団結した こそ 仕事 成功 TOP IRR 得る (強調) ではないか
「組織が団結していてこそ、仕事の成功が可能ですよ」

(50) ló mjəmə dáýàyonlū phlòun chiphó chəθàochəklè jò
LOC ミャンマー 放送 カレン 民族 番組 この

ʔó wédá mənī mǎbò thíkhānyə̀nchā θè nó
 ある (強調) 人 助ける 州民 (複) TOP

chə̀θà̀uchək̀lè̀ bē mə thánthṑ θò xùxùxà̀nxà̀n mǎbò mǎchèn
 番組 so.as IRR 発展する よう 団結して 助ける 助ける

ʔó wédá nó chī ló
 ある (強調) あの too LO

「このミャンマー放送カレン語番組では、職員のカレン州民が、番組が発展するよう団結して助け合っているということがあるのです」

(51) lāndà lə mǎmó yē lə yà lə cón ló mənī mǎbò thíkhānyə̀nchā θè
 場所 NEG 同じ 来る 1 人 1 箇所 LOC 人 助ける 州民 (複)

kò̀nɿwē ʔə̀phúʔədón θè nó mə pàθijā lǎn θà
 組織 団体 (複) TOP IRR 知らせる down MID

dē khə̀mlǎn θè nó chī ló
 COM 観衆 (複) あの too LO

「出身地の違うカレン州民からなる私達の組織を視聴者の皆さんにご紹介します」

4. 考察と結論

このように、書き言葉では非常に頻繁に文末助詞 *ló* が現れる。一方で、通常の話し言葉では、Speech 1に見られるように、*ló* は現れない。しかし、話し言葉であっても、Speech 2 やSpeech 3のように、不特定多数の聞き手に話しかける時、*ló* が現れる。*ló* が現れる発話には、次のような共通特徴が見られる。それは、(i)多数の聞き手が存在する、(ii)話し手は丁寧に話そうとしている、ということである。(i)が観察される具体的な場面は、演説、僧侶による法話、学校等における講義、集会における司会などである。(i)は *ló* が使われるための必要条件であり、(ii)は、話し手がこの助詞を使う動機である。(i)の条件が満たされたとしても、丁寧さよりも例えば親密さを演出しながら話しかける場合には *ló* は使われない。このことから、*ló* は、多数の聞き手が存在する場面において発話に丁寧さを付加する機能を持つと考えられる。

東部方言以外にも同源の機能語が見られることから(例えば西部方言群の *ló*)、おそらく、*ló* 自体、書き言葉の出現以前から存在していたと思われる。

書き言葉は、不特定多数の読み手を想定して書かれるものである。これは、多数の聞き手が存在するという、話し言葉において *ló* が使われる条件と一致する。そしてまた、書き言葉は、話し言葉とは違って、時間と空間を越えて読まれる可能性のあるものだから

(timeless, permanent, etc.; Coulmas 2002: 11)、ありとあらゆる種類の状況で読まれる可能性を想定しなければならなくなり、そのため書き手は丁寧さを文章に込めたくなるだろう。書き言葉に *lɔ* が極めて頻繁に使われるようになったのは、多数の聞き手(=読み手)の存在が前提となるという点で使用条件が一致し、しかも、それが表す丁寧さが、書き言葉に相応しいと見なされたからであると推測する。つまり、*lɔ* が元から持つ機能が書き言葉という「場面」で活用されているのである。したがって、*lɔ* を、文語体(もしそういうものが存在するのであれば)に属する機能語と見なす必要はない。

なお、書き言葉における対句法の多用については、対句法が多くの東南アジア諸言語やシナ・チベット諸語で絢爛たる文章を作る効果を持つことから、数千年に及ぶ太古からの修辞法である可能性がある。関係節標識の多用については、西部方言やスゴー・カレン語との比較からこのタイプの関係節が古いタイプの関係節であると考えられるため、古い表現が格調の高さを醸し出すために使われていると推測する。

略号

COM	共同や道具を表す助詞	NEG	否定
IRR	非現実法	PFV	完結相
EMP	強調	REL	関係節標識
LO	文末助詞 <i>lɔ</i>	SFP	文末助詞(<i>lɔ</i> 以外)
LOC	場所・起点・着点を表す助詞	TOP	主題
MID	中動態標識		

引用文献

- Coulmas, Florian (2003) *Writing Systems: An Introduction to Their Linguistic Analysis*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 加藤昌彦(2001a)「仏教ポー・カレン文字」河野六郎・千野栄一・西田龍雄(編)『世界文字辞典』(言語学大辞典別巻) pp.847-851, 東京: 三省堂.
- 加藤昌彦(2001b)「キリスト教ポー・カレン文字」河野六郎・千野栄一・西田龍雄(編)『世界文字辞典』(言語学大辞典別巻) pp.333-337, 東京: 三省堂.
- 加藤昌彦(2006)「同一言語内における文字普及状況の差異について——ポー・カレン語の事例」塩原朝子・児玉茂昭(編)『表記の習慣のない言語の表記』 pp.89-110. 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Kato, Atsuhiko (2017) “Pwo Karen.” (In) Graham Thurgood and Randy LaPolla (eds.) *The Sino-Tibetan Languages (2nd Edition)*, 942-958. London and New York: Routledge.
- Matisoff, James A. (1973) *The Grammar of Lahu*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

